

河川改修の促進、農業用施設災害の早期復旧などを緊急要望 上越市選出の全県議と関係市議が共同して県知事に要望書提出

上越市選出の全県議と大島区、浦川原区などの被災地選出市議が17日、そろって県庁に出向き、今回の豪雨災害についての県知事への要望書を提出しました。要望書は森邦雄副知事に手渡し、被災地の復旧、復興への支援を訴えました。

要望書には、激甚災害の早期指定へのいっそうの努力、主要地方道上越安塚柏崎線、県道川谷十町歩線などの早期復旧、田麦川と保倉川の合流地点の改修、吉川、大出口川の河積の拡大と草木除去、農地、農業用施設の査定前復旧も

目が盛り込まれています。

参加者は、「川谷地域は孤立化の危険性をもっている。早期復旧を」（小山県議、橋爪）

「雪が降る前に農地などの災害復旧を行っていただきたい」（橋爪）

「大島区総合事務所は大島区の災害対策の拠点施設なので、田麦川と保倉川の合流地点の改修を急いでほしい」（橋爪、

岩野市議）などと要望しました。森副知事は、一つひとつじっくりと要望を聞き、田麦川と保倉川の合流地点の改修については、すでに土木部に話をしたことを明らかにしました。そして最後は、「わかりました。関係部局、知事に伝えます」と答えました。

上越市選出県議全員と関係市議が災害対策で一緒にあって県へ要望するのは、私の知る限り

初めてです。関係部局、知事に伝えます」と答えました。

上越市選出県議全員と関係市議が災害対策で一緒にあって県へ要望するのは、私の知る限り

り、今回が初めてです。市民の暮らしを守り、安全を確保するために超党派で行動することは当然のことです。今後も、こうした活動をいろんな分野に広げていきたいものです。

被災地視察も超党派で実施

この要望書提出に先立ち、上越市選出県議と関係市議が12日、災害現場を視察しました。視察には、新潟県上越地域振興局幹部、上越市役所の幹部なども同行しました。

視察したところは柿崎、吉川、大島、浦川原の4区内の河川の増水などによって引き起こされた冠水、浸水被害現場、地滑りによって交通止めとなった場所、農地・農業用施設被災現場、道路決壊現場など14箇所。吉川区内の視察ではすべての視察地で町内会の人たちが立ち会ってくださり、私とともに災害発生時の状況、今後の対策への要望などをのべました。他区についても地元選出市議や町内会長などが訴えました。

このうち吉川区国田の横田町内会長さんは、町内会のみなさんが橋のそばの水道管を必死で外そうとしたことや床上浸水した家の家財道具の移動などを切ない思いで行ったことなどを報告し、災害対策の強化を求めました。また、大島区竹平の内山町内会長さんは、「ここでの災害はこれで3回目。災害復旧は原形復旧が基本というが二度と同じことが繰り返されないよう支援してほしい」「冬を前に早期に災害復旧工事をやっていただきたい」と訴えました。



吉川区国田での視察



大島区足谷での視察

視察後は、吉川コミュニティプラザで意見交換し、県への要望をどうしていくかなどについて話し合いました。

「なんだ、ここにも咲いていたのか」妻の実家の墓参りに行き、墓のすぐ近くにある百日紅を見て、うれしくなりました。手前の階段のところから見上げると、鮮やかな赤い花が青い空にパツと咲いています。それもひとつだけではなく、いくつも。

じつはこの日、妻も私も百日紅(さるすべり)の花が頭から離れなくなってしまいました。金沢に住む次夫婦が帰ってきていて、母が炊いた赤飯を家族みんなで食べた後、金沢で撮影したという花火の動画をテレビで再生して見ました。その花火の映像を見た妻が、わが家の庭に咲いている百日紅を思い浮かべたのでしょうか。「百日紅つて、花火みたい」と言ったのです。

以来、吉川区尾神(蛍場)にあるわが家の墓参りをした時も、妻の実家がある柏崎へ行く時も、「ほら、あそこにも咲いている」「こつちには白い百日紅があるよ」と、どこへ行っても百日紅を探さようになっていました。言われてみれば、百日紅は夏の青空に似合いますし、木のあちこちに花を咲かせた姿は花火そっくりです。

妻の実家のお墓は集落のほぼ真ん中にあります。集落は三十数戸、そのうちのほとんどの家の墓がここにありますが。道路から段々につくられている墓地の最上部には杉林があつて、セミの鳴き声がじつに賑やかでした。

墓場にあつた百日紅は、幹の太さが直径一〇センチくらいです。幹はところどころツルツルになっていて、枝打ちした痕(あと)が二か所ありました。墓場に植える木ですから、天に向かって伸びるのはかまわないけれども、よその敷地まで枝を広げては困るということなのでしょう。

私たちがお墓へ行き、先祖を迎えに出かけたのは午後五時頃でした。墓場は徐々に人の数が増え、三十人近くになりました。どの家も家族連れ、なかには親戚の人と一緒にグループもありました。みんな、小さい子どもからかなり高齢の人までお墓に来ています。先祖から命を受け継ぎ、親から子へ、子から孫へとつなげている、その姿がここにあると思えました。

当然のことながら、それぞれの家族の間には何らかの横のつながりがあります。妻の実家の本家にあたる家は「大西」という屋号の家です。「『大』という字が屋号についている家というのは、力があつたんだよね。分家を出すことができたんだから。お宅は分家をふたつも出したのだからすごいですよ」。義兄と「大西」の親戚にあたるという女性との間で話が弾んでいました。

お墓のロウソクの火を提灯の中に移し、墓場から下りて舗装された市道を歩き始めた時のことです。墓参りを終えたばかりのおばあさんの両手を持って後ろ向きに歩く女性の姿が目に入りました。手を引いている女性はおそらく、おばあさんの家の嫁さんでしょう。二人が歩くテンポは言うまでもなく超スローです。そのうち、その嫁さんがおばあさんの左手をとって横に並び、声をかけながら歩き始めました。「はい、一、二、一、二、左足をちゃんと上げて、はい、左足をしっかりと上げて……」その声は力強く、やさしさに満ちていて、素敵な光景でした。

この二人が横に並んで歩く姿が気に入って、その後の帰り道は私も足を大きく上げて「一、二、一、二……」とやりました。墓参りに一緒に出かけた甥も、甥の子どももある小さな女の子もニコニコ顔です。妻の実家に着くと、玄関前の大きな百日紅の木が私たちを迎えてくれました。右に赤、左に白、花はとてもきれいに咲いています。

動のあり方、方向性を示すことができたのではないかと思います。

議会は組織的な災害対応をすべき



災害時の議員活動、議会の活動はどうあるべきか。明治薬科大学剛堂会館で18日、講演会がありました。主催は地域科学研究会です。日本自治創造学会理事長の穂坂邦夫さん(元志木市長)や浦安市議の末益隆志市議らとともに講演してきました。

私は今年、上越市で発生した豪雪災害、地震災害、水害のなかでどういう活動を進めてきたか、災害時の議員の果たすべき役割などについて話をさせていただきました。

大合併の中で災害対応はようになったか、党派を越えた活動、二元代表制のもとで議会も災害対策本部をつくって災害対策を進めていくことが求められているのではないかなどの発言は注目していただきました。

穂坂さんなどの講演から学んだことは、「行政は制度内で考える癖がある。それを変えていくのは議会の仕事だ」「議会による住民主導の復旧・復興計画の取りまとめが求められている」ことです。市議会としての活動が住民に見えない、議会は何をしているのかという声が多くある中で、この日の講演会は、今後

三和区などでも豪雨被害が…

16日、旧三和村議の橋本さんから、豪雨による三和区地内の農地災害を見てほしいと要請があり、出かけました。場所は私が20代の時に仕事をしていた牧場のすぐ下の田んぼです。現地には耕作者の方もおられ、豪雨時の状況などをお聴きしました。写真の田んぼは耕作者の方が自力で圃場整備し、守り続けてきたものだといいます。総合事務所の担当は吉川区出身。耕作者の方からよくがんばってくれているという話を聞いて、うれしくなりました。



お盆休みは半日

お盆休みは中学時代の同級生と一緒に遊びました。尾神岳の麓でビールを飲み、おしゃべりを楽しみました。尾神岳ではツリガネニンジン(トウモロコシ)の花が咲いていました。

